

第5回 AROMA RESEARCH 論文賞 2019

AROMA RESEARCH 編集委員会に設けられた論文賞選考委員会は2019年掲載論文の中からその内容が香りの機能性と効用に関わる基礎・応用分野の進歩に寄与することが期待される優れた学術的内容を含む論文を慎重審議し、選考の結果、「環状骨格をもつゼルンボン誘導体および類縁体の香気と構造の相関」(第79号(vol. 20 No. 1 2019)掲載)、著者：宇高芳美¹⁾ 柏崎玄伍^{1,2)} 川阪昌

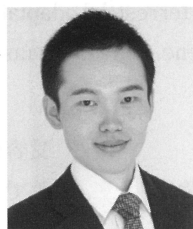
代¹⁾ 吉川知美²⁾ 藤原裕子¹⁾ 平本梨花子¹⁾ 渡辺 凌¹⁾ 種田圭悟¹⁾ 吉村寛汰²⁾ 山本恵里花²⁾ 井坂くるみ²⁾ 芦田久美子¹⁾ 藤井健二³⁾ 北山隆^{1,2)}(近畿大学大学院農学研究科バイオサイエンス専攻¹⁾ 近畿大学農学部バイオサイエンス学科²⁾ 大洋香料(株)³⁾)に論文賞を授与、奨励賞は見送りとすることを決定いたしました。

AROMA RESEARCH 編集委員長 外池光雄

論文賞要旨

環状骨格をもつゼルンボン誘導体および類縁体の香気と構造の相関

(宇高芳美・柏崎玄伍・川阪昌代・吉川知美・藤原裕子・平本梨花子・渡辺凌・種田圭悟・吉村寛汰・山本恵里花・井坂くるみ・芦田久美子・藤井健二・北山隆)



左より

筆頭筆者 宇高芳美(うたか よしみ 近畿大学大学院農学研究科バイオサイエンス専攻)

共同筆頭筆者 柏崎玄伍(かしわぎ げんご 近畿大学農学部助教)

責任著者 北山 隆(きたやま たかし 近畿大学農学部教授)

ゼルンボンはハナショウガの二次代謝産物であり独特な草様の香気を有する。化学構造としては11員環セスキテルペンで、3つの二重結合と1つのカルボニル基を持つことからこれらの部位の反応性を生かした誘導体化が可能である。二重結合を還元あるいはエポキシ化したもの、カルボニル基を水酸基へ還元したもの、二重結合をアレンへと増炭したものなど、ゼルンボン誘導体を14種合成した。さらに比較対象として11員環、12員環、15員環のシクロアルカノン誘導体をそれぞれ5種、4種、4種用意した。合計28種の各化合物に対し15種類の香調から最大3種類の香調により官能評価を行ったところ、構造と香気に関する興味深い結果が得られたので報告する。

『AROMA RESEARCH 論文賞』

『第6回 AROMA RESEARCH 論文賞』を、2020年発行のvol. 21 No. 1~4(通巻81~84号)に報文として掲載されたものの中から、その内容が香りの機能性と効用に関わる基礎・応用研究・応用分野の進歩に寄与することが期待される優れた学術的内容を含むものに授与いたします。選考は編集委員会に設けた選考委員会が当該年の全巻刊行後に行い、結果は翌年の誌上にて発表します。

(AROMA RESEARCH 編集委員会)